

巻 頭 言

島根県立出雲高等学校
校長 真 玉 保 浩

スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業（2014～2018 年度）は5年目の最終年度を迎えた。本校では、教育課題である生徒のグローバルな視野の拡大に向けて、「自立」した個人の能力育成と「協働」的な研究活動による、グローバル・リーダー育成プランを考え、実践してきた。課題研究のテーマとしては「世界の持続的な発展に向けた創造的提案～国際社会に向けた出雲からの発信～」を掲げ、「社会」「自然」「ひと」の三つの切り口からアプローチを行った。生徒はゼミに分かれ、専門性の高い大学教員、大学院生や留学生等からの指導・助言を通して研究成果をまとめ、同時に、個人の力を養うための質の高い英語教育・教養教育、そしてディベート（一部は英語ディベート）などの協働的な学習に取り組んだ。さらには、海外研修等における海外の高校生との意見交換、及び海外の高校からの留学生受け入れ等を通して、自分とは異なる他者を受容する姿勢を育むことで、「地域・社会の核となるグローバル・リーダー」を育成できるものと仮説を立て、教育プログラムを実践し、仮説の検証に取り組んできた。指定最終年度にあたる今年度に重点的に取り組んだことは以下の4点である。

- (1) 課題研究を通じた、新たな価値あるものを創出する意欲と態度の育成
- (2) 研究成果を生かし、地域・社会への貢献活動へと向かわせる主体的行動力の醸成
- (3) プレゼンテーション能力の育成
- (4) 研究開発によって得られた成果を生かした各教科での指導

特に(1)と(2)については、生徒個々の興味・関心を活かしつつ、潜在化する社会課題を「自分ごと」としてより身近にとらえ、主体的に課題の解決に至るための新しい思考プロセス（デザイン思考）を活用した教育プログラムを開発していくことにした。

この5年間SGH事業指定を受けて研究に取り組んだ成果に触れたい。1つは高大連携や地元の企業や行政からの協力によって、生徒が社会のリアルな課題に触れることができ、視野が広がり、持続可能な社会のためにどう貢献するかという視点を持って探究学習に取り組んだこと、そして学習を通じて得たことを参考に自分自身が進路決定の目的について考える生徒が増えたことである。2つめは、機会あるたびに事業目的やビジョンを伝えたり、6つの育成すべき資質・能力を記したポスターを学校内の目につくところに掲示し視覚可したりすることで、生徒も教員も目標を共有できたこと、そして両者が「協働的な学習」と「客観的根拠に基づく思考」という出雲高校の学びのスタイルに馴染んだことが挙げられる。例えば、英語、国語、地歴公民をはじめかなりの教科で、ペアワークを取り入れたり、授業の発問や定期試験の出題で根拠に基づく深い思考を促したり、家庭科や保健体育でも調べ学習と発表を導入するなど、各教科の授業が変わってきた。その結果、教科の学習では、細部まで指示しなくても生徒同士で協力して考えられるようになったり、生徒による授業評価アンケートに、なぜそうなるのか深く考えることを希望する記述が見られたりするようになった。SGHの中間評価で各教科と課題研究の有機的な連携について評価を得たが、すべての教員が課題研究に関わることで学びのスタイルが校内に浸透した結果、授業に対する意識が変わってきたと分析している。さらには、SGH事業との因果関係は明らかではないが、生徒が学習活動、学校行事、部活動、生徒会活動など学校生活のあらゆる場面において活発になり、学校全体が元気になったとことである。教員全体がそう感じていると言い、保護者による学校評価アンケートの結果にも表れている。課題は、課題研究のさらなる深化、研究指導體制の改善と成果の普及である。

今後は、SGH事業で得た成果と知見を継続中のSSH事業に生かすことで、社会貢献の意識を持ち行動する生徒、世界的な視野に立って将来の地域・社会を担う生徒を育てていくための教育活動を継続していき、将来的にわたって本校教育の魅力としていきたいと考えている。

最後になりますが、これまで本校のSGH事業の推進にご支援ご助言をいただきました文部科学省、島根県教育委員会、運営指導委員の皆様、島根大学、島根県立大学、地元企業及び出雲市をはじめとする関係機関の皆様すべてに、心より感謝申しあげるとともに、本報告書をご高覧いただいた皆様方にもぜひ本校の教育に対してのご指導ご助言をいただきますようお願い申し上げます。